

教育再生の実行に向けた教職員等指導体制のあり方等に関する検討会議・メモ

深谷市教育委員会における教職員配置の取組について

深谷市教育委員会教育長

小柳 光春

○ 基本方針

国・県の方針を踏まえつつ、深谷市教育振興基本計画（「立志と忠恕の深谷教育プラン」）に基づき、幼・保・小・中・高へと続くタテの連携と、家庭・地域などとのつながりを深めるヨコの連携に重点を置く施策を推進する中で、

- ① 子供たちの夢をはぐくむための学びを支援
- ② 子供たちの夢を支えるための教師の意欲を支援

できるよう、教職員配置に努めている。

1 教育課題の解決を図るための人的支援

- タテのなめらかな接続を図る取組
  - ・ 小1プロブレム、中1ギャップなどへの支援等
- ヨコの連携を図る取組
  - ・ 教育と福祉の連携などへの支援等

2 学校の願いに応える人的支援

- 教師が授業に専念できるための取組
  - ・ 問題行動や子供の活動などに対応するための支援等
- 保護者等の要望に対応する取組
  - ・ 小学校の専科指導などへの支援等

深谷市は渋沢栄一翁の「立志の精神」と「忠恕の心」を受け継ぐ教育に取り組んでいます

渋沢栄一翁は、近代日本経済の礎を築いた郷土の偉人であり、教育や福祉、国際親善など、たくさんの業績を残しました。これは、栄一翁が生涯を通じて、「立志の精神」と「忠恕の心」を大切にしていたからです。  
東日本大震災の発生から3年が経ち、国をあげて被災地の復興に取り組んでいますが、思うように進んでいない現実があります。  
また、グローバル化や少子化・高齢化など社会の急激な変化にともない、社会を生き抜く力や未来への飛躍を実現する人材の養成を図るとともに、絆づくりと活力あるコミュニティの形成等が求められています。

このような中、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催が決定し、新しい未来を切り拓くという視点に立ち、社会総がかりでの取組が始まっています。  
改めて、人を強くたくましくする「夢とこころざし」をもち、「まごころと思いやり」で、互いに支え合って生き抜いていくことの価値が再認識されています。  
深谷市教育委員会では、栄一翁の精神を根底に据えた「深谷市教育振興基本計画～立志と忠恕の深谷教育プラン」（平成24年度～29年度）に基づき、幼・保・小・中・高へと続く「タテの連携」、家庭・地域とのつながりを深める「ヨコの連携」を一層強め、「夢とこころざしをもち、まごころと思いやりのある深谷の子」を育ててまいります。



深谷市のめざす子ども像に向かって「生きる力（知恵・心・体）」をはぐくむんだね。

## 深谷市のめざす子ども像 夢とこころざしをもち、まごころと思いやりのある深谷の子



### 教育内容 (重点) 夢をはぐくむ

- 基礎・基本、活用力を身につけます
  - 豊かな人間性を身につけます
  - 心身の健康を保持し、体力を身につけます
  - 個の違いを大切に、共に生きる姿勢を身につけます
  - 情報活用能力・コミュニケーション能力・国際感覚を身につけます
  - 社会的・職業的自立に向けて必要な意欲・態度や能力を育成します
- ◇青淵・学びの郷づくり
- |                |                   |
|----------------|-------------------|
| 1 深谷市チャレンジ     | 2 中学生補習学習         |
| 3 ALT活用の早期英語教育 | 4 こころざし深谷(国際・科学)塾 |
| 5 こころざし読本・歳時記  | 6 まごころ先生派遣        |
| 7 まごころ訪問       | 8 総合的ないじめ・不登校対策   |
| 9 食育推進と朝食欠食解消  | 10 体力向上の取組推進      |
| 11 武道指導の充実     | 12 子どもの暗唱を楽しむ会    |
| 13 キャリア教育の充実   | 14 小中一貫教育の推進      |

### 子どもたちの夢を支え 子どもたちの夢をはぐくむ 国・学校・地域連携



### 教師の力量向上「熱い思い、指導力、人間力」

### 条件整備 (重点) 夢を支える

- 0歳から15歳までの子どもを一貫して育てます
  - ☆タテの連携
    - ・幼・保・小・中・高のなめらかな接続
    - ・全中学校区で小中一貫教育の推進
  - ☆ヨコの連携
    - ・市民協働による学校応援団の充実
    - ・教育と福祉の連携強化
  - いじめ防止関連条例のもと、子どもの安心安全を図ります
- ◇青淵・学びの郷づくり
- |                     |                    |
|---------------------|--------------------|
| 1 幼・保・小・中連絡協議会      | 2 中・高連絡協議会         |
| 3 教科支援エキスパートの配置     | 4 アシスタント・ティーチャーの配置 |
| 5 特別支援補助員の配置        | 6 学校総合支援員の配置       |
| 7 スクールライフサポーターの配置   | 8 ICTの整備と活用        |
| 9 学校問題サポートチーム       | 10 給食場建設(自校給食)     |
| 11 全教室・特別室エアコン稼働    | 12 学校応援団推進事業の充実    |
| 13 ふっかちゃん i (愛)サポート | 14 緊急連絡サイトの活用促進    |

## 教育内容（重点）

## 夢をはぐくむ

## 1 深谷市チャレンジ

算数・数学、英語の認定テストを行い、学習意欲を引き出します。

## 4 ころざし深谷

## 国際塾・科学塾

国際感覚を磨き、科学技術に関心を高めます。



## 11 武道(柔道)指導の充実

専門家を派遣し、安全で充実した授業を実施します。



- 基礎・基本、活用力を身につけます
- 豊かな人間性を身につけます
- 心身の健康を保持し、体力を身につけます
- 個の違いを大切に、共に生きる姿勢を身につけます
- 情報活用能力・コミュニケーション能力・国際感覚を身につけます
- 社会的・職業的自立に向けて必要な意欲・態度や能力を育成します

## ◇青淵・学びの郷づくり

- 1 深谷市チャレンジ
- 2 中学生補習学習
- 3 ALT活用の早期英語教育
- 4 ころざし深谷(国際・科学)塾
- 5 ころざし読本・歳時記
- 6 まごころ先生派遣
- 7 まごころ訪問
- 8 総合的ないじめ・不登校対策
- 9 食育推進と朝食欠食解消
- 10 体力向上の取組推進
- 11 武道指導の充実
- 12 子どもの暗唱を楽しむ会
- 13 キャリア教育の充実
- 14 小中一貫教育の推進

## 2 中学生補習学習

大学生を活用した補習学習を行います。

## 6 まごころ先生派遣

栄一翁の生き方に学ぶため、有識者を派遣します。



## 13 キャリア教育の充実

立志式では、将来の夢やころざしを発表します。



## 条件整備（重点）

## 夢を支える

## 1 幼・保・小・中

## 連絡協議会

幼稚園・保育園、小学校、中学校のなめらかな接続を図ります。



## 3 教科支援

## エキスパートの配置

小学校高学年に専門教科担当教員を配置します。

## 6 学校総合支援員の配置

学校運営・交通安全・補習学習等を支援します。

- 0歳から15歳までの子どもを一貫して育てます
- ☆タテの連携・幼・保・小・中・高のなめらかな接続
  - ・全中学校区で小中一貫教育の推進
- ☆ヨコの連携・市民協働による学校応援団の充実
  - ・教育と福祉の連携強化
- いじめ防止関連条例のもと、子どもの安心・安全を図ります

## ◇青淵・学びの郷づくり

- 1 幼・保・小・中連絡協議会
- 2 中・高連絡協議会
- 3 教科支援エキスパートの配置
- 4 アシスタント・ティーチャーの配置
- 5 特別支援補助員の配置
- 6 学校総合支援員の配置
- 7 スクールライフサポーターの配置
- 8 ICTの整備と活用
- 9 学校問題サポートチーム
- 10 給食場建設(自校給食)
- 11 全教室・特別室エアコン稼働
- 12 学校応援団推進事業の充実
- 13 ふっかちゃん i(愛)サポート事業
- 14 緊急連絡サイトの活用促進

## 2 中・高連絡協議会

深谷市及び寄居町、熊谷市内の高校と進路指導に係る連携を図ります。

## 8 ICTの整備と活用

県内市トップの整備率でわかる授業を実施し、校務支援に努めます。



## 13 ふっかちゃん i(愛)サポート事業

「ふっかちゃん子ども福祉基金」で、特別支援学級等にタブレットを整備します。



# 深谷市学校教育グランドデザイン



深谷市で学ぶ子どもたちを「教え、育てる」ために、深谷の教育をどのように進めていくか、学校教育振興懇談会やPTA代表等との協議を踏まえ、基本的な方針を示したものです。

## Point1

### 教育の大きな役割

教育には、子どもたちに、変化の激しい社会をたくましく生き抜く力や社会を形成する主体者としての資質を育成することが求められています。将来の社会的自立に向けて、人との関わりや社会の中で自らの夢を描き、実現できるように子どもたちを教え導いていきます。

## Point2

### 深谷の教育資源に立脚して

深谷市には、渋沢栄一翁や生沢クノ女史など、多くの先人がいます。また、豊かな自然や世界をリードする産業が立地する環境にも恵まれています。

義務教育段階での基礎・基本の徹底を踏まえつつ、ふるさと「深谷」のすばらしい資源を活用した教育を推進していきます。

## Point3

### 深谷市の先人 ～ 渋沢栄一翁 ～



渋沢栄一翁の足跡から、今、求められる教育の姿にたどり着くことができます。

I 近代日本の国づくりを推進した生涯～「**立志の精神**」

II 論語を精神的基盤として、実業界にたずさわった姿～「**忠恕の心**」

III 人々をまとめ、会社をおこし、慈善活動・国際親善に取り組む姿～「**支え合う心**」

**「深谷市は渋沢栄一翁の心を受け継ぐ教育に取り組めます」**

## Point4

### 深谷市の「めざす子ども像」

## 夢とこころざしをもち、まごころと思いやりのある深谷の子

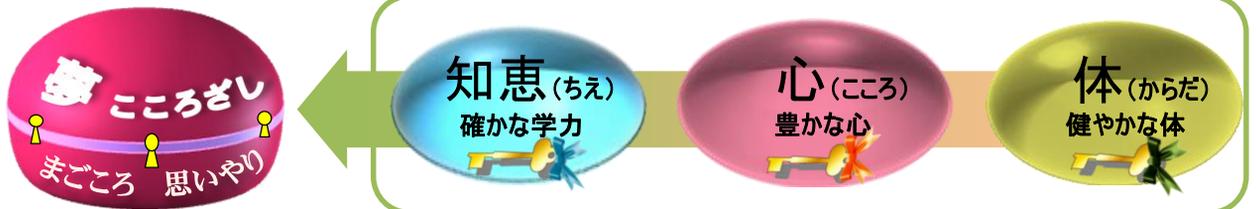
人は、「夢」をいただき、これを「こころざし」として掲げ、自分の人生を歩んでいきます。

その道のりは、決して平坦ではありませんが、自らを叱咤し、友を思いやり、社会の中で助け合いながら、「夢」の実現に一步一步近づいていくのです。

深谷市は、このような子どもたちの自立と成長を手助けしていきます。

## Point5

### 夢を叶える3つの鍵<sup>かぎ</sup>



こころざしを立て、自らの「夢」を実現するためには、「**知恵、心、体**」の3つの鍵が必要です。子どもたちが、この3つの鍵を手に入れて、生きる力を身につけ、未来を切り拓いていけるよう、学校、家庭、地域が一体となって連携し、協働することが大切です。

### 夢七訓

夢なき者は理想なし 理想なき者は信念なし 信念なき者は計画なし 計画なき者は実行なし  
実行なき者は成果なし 成果なき者は幸福なし ゆえに幸福を求める者は 夢なかるべからず  
\*この「夢七訓」は、渋沢栄一翁が残したものとされています。

教育再生の実行に向けた教職員等指導体制の在り方に関する検討会議

資料

平成26年6月4日（水）

深谷市教育委員会教育長 小柳光春

# 立志と忠恕の深谷教育

～「夢とこころざしをもち、まごころと思いやりのある深谷の子」の育成を目指して～

## 夢をはぐくむ取組

### 「立志の精神」・「忠恕の心」

- 深谷市チャレンジ
- ステップアップレッスン
- 早期英語教育
- こころざし深谷国際塾・科学塾 等
- 渋沢栄一こころざし読本
- 青淵こころざし歳時記
- まごころ先生派遣事業
- まごころ訪問 等

支援

## 教師の意欲を支援する取組 ～人的・物的環境の整備～

### I 人的支援(市費臨時職員、非常勤等)

#### 1 学校運営面からの支援

- (1) 学校総合支援員
- (2) 学校問題サポートチーム

11,040千円

60千円

11,100千円

#### 2 主として学習面からの支援

- (1) 小学校教科支援エキスパート
- (2) 学校アシスタントティーチャー
- (3) 特別支援補助員
- (4) 外国語指導助手
- (5) 日本語指導員
- (6) 図書館補助員
- (7) 理科支援員 1/3(国) 950千円
- (8) ICT支援員

18,150千円

16,257千円

29,286千円

58,802千円

3,465千円

11,229千円

2,890千円

851千円

140,930千円

#### 3 主として生徒指導面からの支援

- (1) 学校福祉相談員
- (2) スクールライフサポーター
- (3) 学校相談員 6/10(県)
- (4) 教育研究所専門員

8,208千円

23,339千円

13,624千円

19,320千円

64,691千円

### II 授業を支える物的環境の整備 ICT環境の整備

242,158千円

242,158千円

# 1 学校総合支援員

➡資料①

## 1 目的

不登校や児童虐待、保護者対応など、学校が抱える問題の解決に向けてのアドバイスや児童・生徒の安全指導、中学生補習学習等、学校運営に係る総合的な支援を行う。

## 2 概要

### (1) 活動内容

- 学校運営アドバイス・・・保護者対応や虐待、中1ギャップなどに対応。
- スクールガードアドバイス・・・学校の安心・安全を支援。
- 学習アドバイス・・・大学生をコーディネートし、学力に不安をもち、塾へ行かない中学3年生を支援。

(2) 配置 市内全中学校（10校）

(3) 勤務時間 週20時間の勤務を原則とし、勤務日の曜日と一日の勤務時間は、配置された勤務校と相談し決定する。

## 3 経費（平成26年度）

非常勤職員報酬 92,000 円×12 月×10 人=11,040,000 円

# 2 学校問題サポートチーム

➡資料②

## 1 目的

保護者等からの理不尽な要求・要望等により、学校の教育活動本来の業務に支障が出ることを防ぐ。併せて、教員が子どもと向き合う時間を確保するため、学校運営上の問題で困っている学校を支援する。

## 2 概要

### (1) 構成メンバー

- 深谷市立教育研究所専門員 ○ 学校福祉相談員 ○ 学校教育課担当
- 学校総合支援員 □ 関係機関：警察OB（市職員）・弁護士（市顧問弁護士）

### (2) 主な業務

学校（学校総合支援員）からの依頼を受け、より専門的な立場から、学校運営上の諸問題の解決方法について対応する。

【第1次支援】学校総合支援員（各中学校1名・計10名）

- 学校に常駐し、学校運営に関する助言や関係機関との連絡を行う。

【第2次支援】学校問題サポートチーム会議

- 法的な判断が必要とされる場合や、警察等との連携が必要とされる場合など、学校または事務局からの求めによって開かれる。

## 3 経費（平成26年度）

サポートチーム講師謝礼 20,000 円×3 回=60,000 円

### 3 教科支援エキスパート

➡ 資料③

#### 1 目的

- 小学校高学年における教科担任制の一環として、専科指導実施のための支援を行う。
  - (1) 「中1ギャップ」等の解消に向けた指導体制の充実を図る。
  - (2) 教科担任制の充実に資する。
  - (3) 教科支援エキスパート教諭の導入により、担任がALTとの打合せなどにあてられる時間を生み出す。

#### 2 概要

- (1) 配置 市内全小学校（19校） ※ 配置日数は高学年の学級数により算出
- (2) 担当教科 教科は学校の希望により決定する。（H26は音楽16校、家庭科3校）  
エキスパートは単独で授業を担当し、評価まで行う。
- (3) 勤務時間 エキスパート（市費非常勤特別職）の勤務時間は1日4時間とし、8時間（2日）から20時間（5日）の間で決定する。給与は月給制とし、8月は勤務を要しない。
- (4) 採用条件 教員経験があり、教科指導について高い専門性を有する者

#### 3 経費（平成26年度）

予算措置 18,150,000円

非常勤特別職報酬 週5日（20時間）  $150,000円 \times 11ヶ月 \times 11人 = 18,150,000円$

### 4 アシスタントティーチャー

#### 1 目的

- 小学校において学級担任を支援し、児童一人ひとりの個に応じた教育を行う。併せて、複数教員による指導や少人数指導により、よりきめの細かい指導を推進する。
- 低学年児童の基本的な生活習慣の育成を図る。

#### 2 概要

- (1) 配置学校 全小学校（19校）
- (2) 配置人数 各小学校 1人
- (3) 勤務条件 1日4時間 年間185日 時給 1,100円
- (4) 採用条件 教員免許取得者（校種は問わない） 面接による合否判定
- (5) 任用期間 6ヶ月ごとに更新（最長3年まで）

#### 3 経費（平成26年度）

予算措置 16,256,780円

内訳) 臨時職員賃金	$1,100円 \times 4時間 \times 182日 \times 19人$	= 15,215,200円
臨時職員賃金（休日勤務）	$1,100円 \times 4時間 \times 3日 \times 1.35 \times 19人$	= 338,580円
通勤手当相当額	$200円 \times 185 \times 19人$	= 703,000円

## 5 特別支援補助員

### 1 目的

特別支援学級及び通常の学級に在籍している特別支援教育的な支援が必要な児童・生徒の教育的ニーズの支援のため、自立支援、学習支援、介助を行う。

### 2 概要

- (1) 配置基準 特別支援学級1学級の在籍人数が3名以上、就学支援委員会の判定で、特別支援学校「適」の判断を受けている児童・生徒が在籍している特別支援学級及び発達障害等通常の学級で複数の特別支援教育的な支援が必要な児童・生徒が在籍している等の場合に配置する。
- (2) 配置実績 特別支援教育的支援の必要な児童・生徒の支援の補助及び介助  
小・中学校(市内29校) ※ 平成25年度(32名配置)

### 3 経費(平成26年度)

予算措置 29,286,475円

内訳) 特別支援補助員賃金	900円×5時間×197日×31人	=27,481,500円
〃 (休日勤務)	900円×5時間×3日×1.35×31人	= 564,975円
通勤手当相当額	200円×200日×31人	=1,240,000円

## 6 外国語指導助手 (ALT)

➡資料④

### 1 目的

児童生徒の英語コミュニケーション能力の育成及び異文化理解・国際理解の深化のために、市内全小・中学校に英語指導助手(ALT)を派遣することで、国際理解教育の推進を図る。

### 2 概要

- (1) ALT数 16名(平成23年度から2名増員した。)
- (2) 配置校 市内全小・中学校(小学校19校、中学校10校)
- (3) 配置日数 小学校は、第3～6学年の学級数に応じて配置日数を定める。  
中学校は第1～3学年の学級数に応じて配置日数を定める。
- (4) 契約期間 第1期 平成26年4月7日～平成26年6月27日(57日)  
第2期 平成26年10月1日～平成27年3月27日(117日)
- (5) 労働条件 勤務時間 5時間50分/日 有給休暇 なし

### 3 経費(平成26年度)

【債務負担行為】

内訳) 18,905円×180日×16人×1.08=58,802,112円

## 7 日本語指導員

### 1 目的

帰国・外国人児童生徒等の日本語指導を充実させ、学校生活や社会生活への適応を図るため、日本語指導を必要とする児童生徒が在籍している学校に、市費で日本語指導員を配置する。県費日本語指導加配を置かない学校に配置することを基本とする。

### 2 概要

- (1) 配置校 小学校 11校 中学校 6校
- (2) 日本語指導員人数 6名 (市費臨時職員)
- (3) 勤務条件 勤務条件 3時間/日×4日間/週 (年間165日以内)
- (4) 外国籍児童生徒数 小学校 117名 中学校 41名 合計 148名 (H26.5.1)
- (5) 要日本語指導必要者 小学校 87名 中学校 19名 合計 106名 (H26.5.1)

### 3 経費 (平成26年度)

予算措置 3,465,000円

内訳) 臨時職員賃金 6人×165日×1,100円×3時間 = 3,267,000円

通勤手当相当額 6人×165日×200円 = 198,000円

## 8 図書館補助員

### 1 目的

全小・中学校に図書館補助員を配置し、学校図書館整備や読書活動の推進を図る。

### 2 概要

- (1) 配置校 市内全小・中学校 (29校) ※ 各学校に1名配置 (合計29名)
- (2) 職務内容 ○ 図書の貸し出し補助・整理・修理・保管 ○ 書架の整理整頓  
○ 台帳の照合の補助・廃棄処理の補助 ○ 調べ学習の補助、支援 等
- (3) 勤務時間 原則として「月・水・金」の3日間 年間110日を上限とする。  
1日あたり4時間勤務とする。

### 3 経費

予算措置 11,228,800円

内訳) 市費臨時職員賃金 830円 × 4時間 × 110日 × 29人 = 10,590,800円

通勤手当相当額 200円 × 110日 × 19人 = 638,000円

## 9 理科支援員

### 1 目的

有用な外部人材を、理科支援員として小学校第3～6学年の理科の授業に配置・活用することで、理科の授業における観察・実験活動の充実及び教員の資質向上を図る。

### 2 概要

#### (1) 勤務内容

- ・教員の行う理科授業の支援
- ・観察・実験の準備及び片付け
- ・経験等に応じ、指導計画に基づく教材開発支援等

#### (2) 勤務時間

- ・配置小学校長の指示に従う。
  - ※ 1時間目開始から4時間目終了までを含む4時間  
(開始及び終了時間は配置小学校長の指示に従う。)
  - ※ 半日継続して勤務することを原則とする。

### 3 経費

予算措置 2,890,000円

内訳) 理科支援員報償費 5,000円×30回×19校=2,850,000円  
(内 県支出金1/3 950,000円)

## 10 ICT支援員

➡資料⑤

### 1 目的

「ふっかちゃんiサポート事業」の推進にあたり、平成26年4月より、中学校特別支援学級におけるiPadの活用を円滑に行うことを主な目的として「学校ICT支援員」を市内で1名配置する。

### 2 概要

#### (1) 勤務内容

- 通級指導教室におけるICT活用の支援（操作補助、アプリの選定・インストール、充電等の管理など）を行い、個に応じた効果的な学習支援を行う。
- ネットパトロール業務（週に1日程度）

#### (2) 採用条件

学校ICT支援員の資格要件は、教員免許状（小学校または中学校）またはそれと同等の資格を有し、コンピュータに関する知識及び技能を有する者とする。

### 3 経費

予算措置 851,000円

内訳) ICT支援員賃金 1,100円×4時間×185日×1人=814,000円  
通勤手当相当額 200円×185日×1人 = 37,000円

# 1 1 学校福祉相談員

## 1 目的

子ども・学校・家庭・地域の各次元におけるソーシャルワークを通じて、既存の施策・事業や社会資源・支援を探索し、それぞれの担い手の力量や実践を支える。

## 2 概要

### (1) 職務内容

- 子どもを取り巻く問題の発見・整理・分析 《学校・学級支援相談、巡回相談など》
- 支援の方針作成 《学校・学級支援相談、ケース会議など》
- 関係機関との橋渡し 《学校・学級支援相談、ケース会議、関係機関等との連携・協働》
- 子どもの発達支援に関する情報提供 《校内研修会・保護者・地域講演会など》

## 3 経費

予算措置 8,208,000円 (平成26年度)

内訳) 非常勤職員報酬

主任学校福祉相談員 (1名) 252,000円×12月×1人=3,024,000円

学校福祉相談員 (2名) 216,000円×12月×2人=5,184,000円

# 1 2 スクールライフサポーター 資料⑥

## 1 目的

- 一人一人の児童生徒が規律ある態度を身に付け、生徒個々に応じた学習及び生活など学校生活全般に関する支援を行う。
- いじめや不登校など、生徒指導上の課題に対応する学校(配置要請)を支援する。

## 2 概要

### (1) 勤務内容

- 不登校児童生徒への関わりと支援
- 生徒指導に係る問題行動の早期発見及び教師との行動連携
- 保健体育における柔道支援(生徒の負傷等の激減、教師の指導力向上)

(2) 配置人数 14名(小学校5校、中学校9校)

## 3 経費

予算措置 23,339,190円 (平成26年度)

内訳) 臨時職員賃金 1,100円×7時間×207日×14人 =22,314,600円

〃 (休日勤務) 1,100円×7時間×3日×1.35×14人 = 436,590円

通勤手当相当額 200円×210日×14人 = 588,000円

## 1 3 学校相談員

### 1 目的

いじめや不登校等の児童生徒の心の問題の重要性にかんがみ、市立中学校に「学校相談室」を設置し、児童生徒又は保護者の相談に応じるとともに、学校、家庭及び地域との連携を図り、健全な児童生徒の育成を図る。

### 2 概要

#### (1) 職務内容

- 生徒への相談及び支援に関すること。（教職員との連携）
- 配置中学校区の小学校における児童への相談及び援助に関すること。
- 学校・家庭及び地域との連携に関すること。
- いじめ、不登校等への対応に関すること。

#### (2) 採用条件

学校教育に理解があり、子どもの悩みについて相談に応じることのできる資格（教育、カウンセリング、福祉など）又は、相談経験を有する者

### 3 経費

予算措置 13,623,100 円（平成26年度）

内訳) 学校相談員賃金	1,100 円×6 時間×199 日×10 人	=13,134,000 円
〃 (休日勤務)	1,100 円×6 時間×1 日×1.35×10 人	= 89,100 円
通勤手当相当額	200 円×200 日×10 人	= 400,000 円
		(内 県支出金 6/10 額は未定)

## 1 4 教育研究所専門員

➡資料⑦

### 1 目的

幼児、児童生徒、保護者、教職員、学校運営全般に関する支援を行う。

### 2 概要

#### (1) 専門員の種別

- 教育相談 4 名
- 適応指導教室 3 名
- 幼稚園専門員 1 名
- 日本語指導 1 名
- 小学校外国語アドバイザー 1 名
- 学校福祉相談員 3 名

#### (2) 採用条件

専門員は学校教育又は社会教育に関する経験を有する者を、学校福祉相談員は臨床心理士、臨床発達心理士等の資格を有する者又はそれに準ずる知識及び経験を有する者

### 3 経費

予算措置 19,320,000 円（平成26年度）

内訳) 教育研究所専門員報酬 161,000 円×12 月×10 人=19,320,000 円

※ 学校福祉相談員の報酬は含まない。

# 学校総合支援員配置事業

学校が抱える様々な課題  
不登校、いじめ、児童虐待、保護者対応等

- ・配慮を要する子どもへの支援
- ・子どもと向き合う時間の確保

学校外での子どもたちの様子が素早く伝わり、早期の対応が可能になった。

学校相談員  
(常駐)  
子どもとの  
カウンセリング

1次支援

## 学校総合支援員10名

中学校区に各1名ずつ配置

- いじめ、不登校対応
- 児童虐待対応
- 保護者対応
- 中学生補習学習の支援
- スクールガード

H26 予算額  
1,104万円

スクールライフサポーター

学校生活を多様に支援

民生委員  
児童委員

連携強化

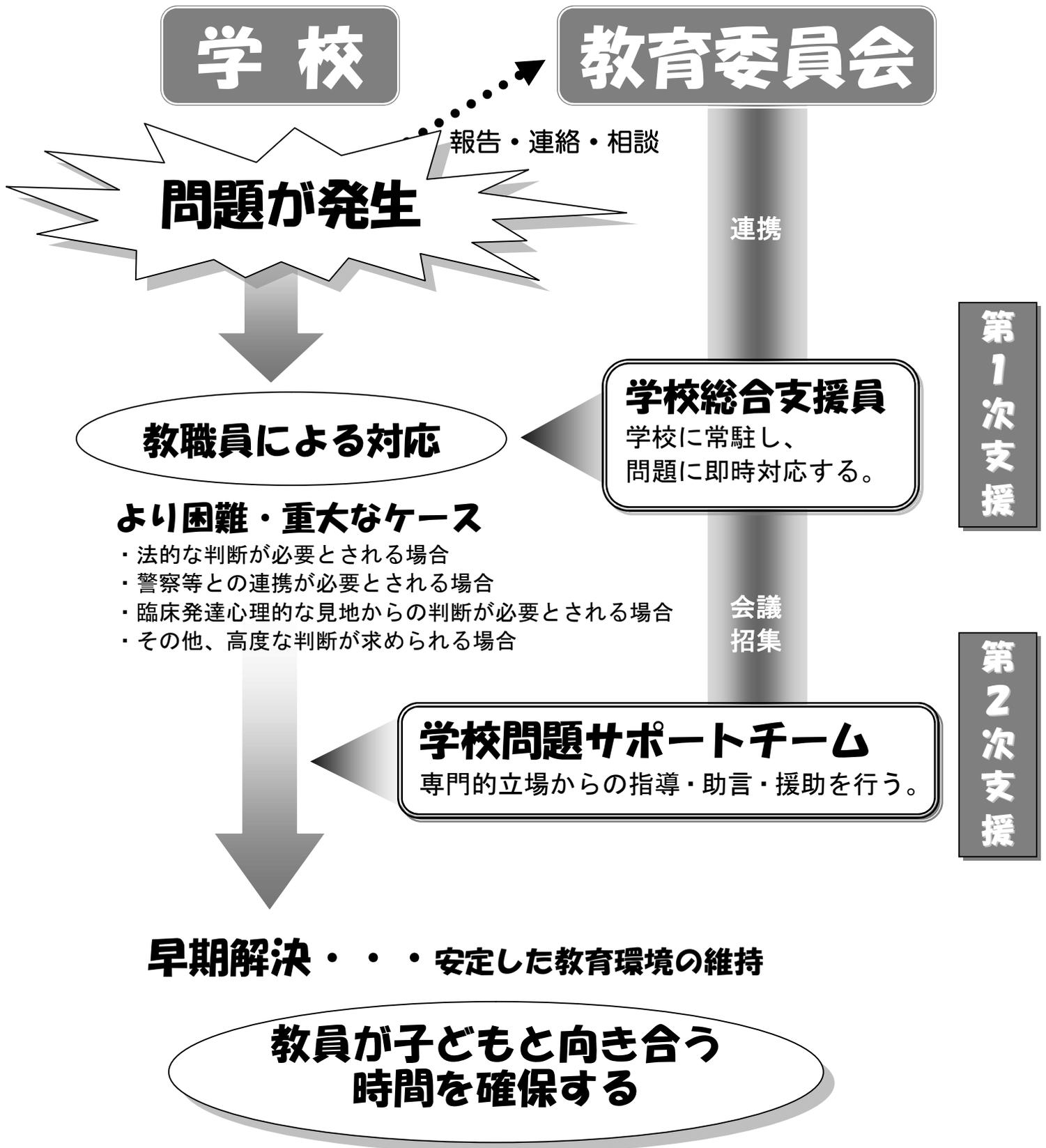
補習学習で授業がよく分かるようになり、学習への意欲がわいた。  
(保護者からの感想)

2次支援

学校問題解決  
サポートチーム

小学校との連携

【深谷市教育委員会が学校を支援する体制】



# 深谷市「小学校教科支援エキスパート」の設置について

## ◆小学校高学年の専科指導を担当する「小学校教科支援エキスパート」を新たに設置します

- ・小学校高学年の専科指導（理科・音楽・図画工作等）を担当する教員を市内全ての小学校に設置します。
- ・該当教科の中学校教員免許状または小学校教員免許状を持ち、高い専門性を有する教員14名を市費負担により新たに採用します。（深谷市非常勤特別職として採用）
- ・設置日数は小学校5・6年生の学級数に応じて決定します。
- ・1人あたりの勤務時間は1日4時間、週5日、計20時間を上限とします。

## ●期待される効果

### 【中1ギャップへの対応】

小学校から中学校への進学した際に発生するいじめや不登校など、いわゆる「中1ギャップ」等への対応を図ります。

- ・専科指導を通して複数の教員が指導に関わることができるようにします。
- ・学級担任による指導中心の小学校から、教科担任による指導の中学校への「なめらかな接続」を図ります。

### 【教科指導の充実】

専門性の高い教員を設置することにより、教科指導の充実を図ります。

教科支援エキスパート  
※H26 予算額 18,150,000円

## ◇国の動向

### 【教職員定数等の改善】

- ・小学校における教員の加配理由に専科指導に係る内容が追加された。

### 【平成24年度概算要求予算】

- ・小学校2年生の35人以下学級の実施について、法改正は見送り。
- ・小学校における専科指導実施のための教職員加配の実施を決定。

## 学校アシスタントティーチャー

- ・小学校全校（19校）への設置は継続。
- ・配置人数 29名→19名
- ・勤務日数200日→185日
- ・勤務時間 5時間→4時間



# 平成24年度不登校対策総合プロジェクト 深谷市教育委員会

立志と忠恕の深谷教育



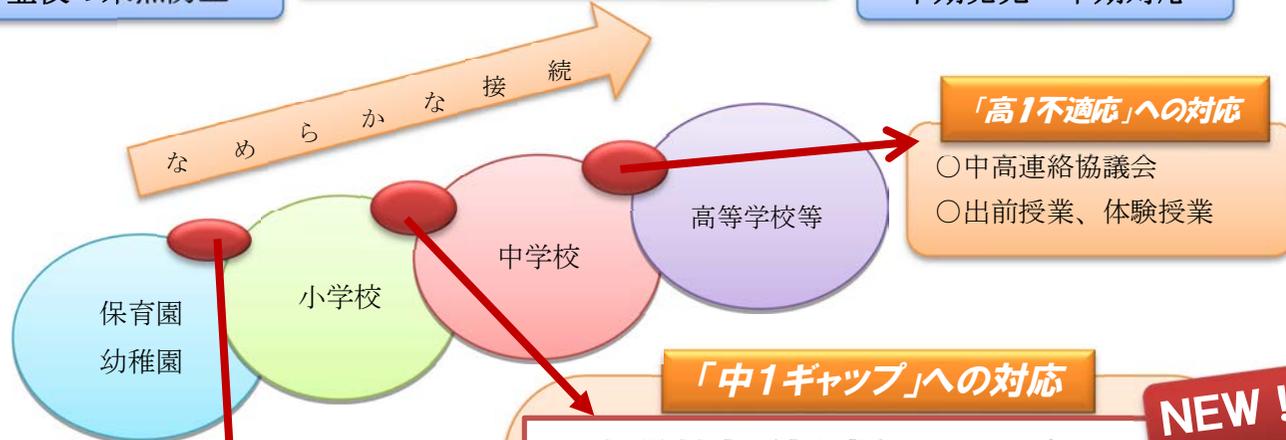
～ふるさとを愛し、  
夢をもち志高く生きる～

H24予算 総額 87,382 (千円)

## 不登校ゼロを目指して

不登校の未然防止

早期発見・早期対応



★は H24 新規事業

### 「小1プロブレム」への対応

○学校アシスタントティーチャー  
(低学年の学習補助、全19校配置)  
19人、15,466(千円)

○小1問題対応非常勤講師  
(生活・学習支援、6校配置)  
6人、7,056(千円)

### ★小学校教科支援エキスパート

(高い専門性を有する教員による高学年の専科指導  
(音楽・家庭科等) 全19校配置)

15人、16,852(千円)

### ○小学校理科支援員

(実験準備等、全校19校配置) 5人、2,850(千円)

### ★小中一貫教育推進モデル事業(県委嘱研究)

(9年間を見通したカリキュラム編成等)

1,000(千円)

NEW!

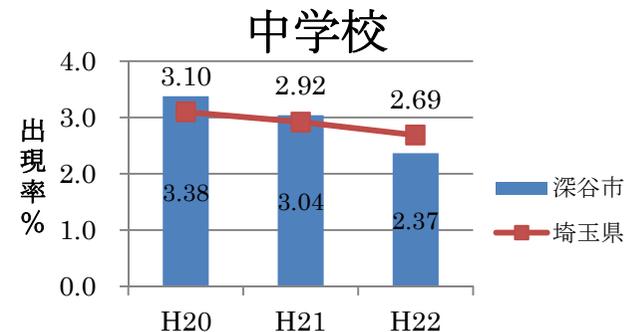
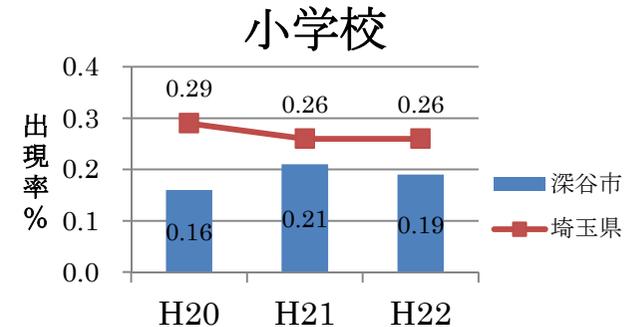
別紙2

別紙3

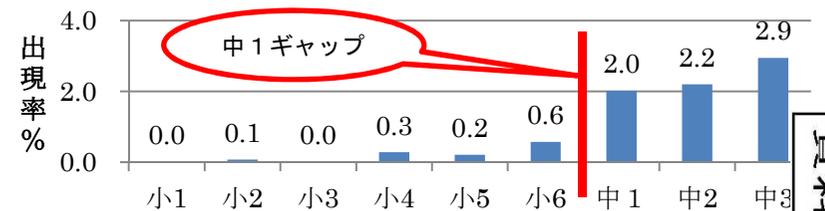
## 日々の教育相談

- ① 小中学校巡回相談(深谷市独自の学校福祉相談員) 3人、8,208(千円)
- ② いきいき教室(在籍校への復帰支援、教育研究所内)
- ③ 学校相談員(全中学校配置) 10人、13,200(千円)
- ④ スクールライフサポーター(児童生徒への支援・家庭との連携) 13人、11,170(千円)
- ⑤ 学校総合支援員(全中学校配置) 10人、11,580(千円)

## 不登校児童生徒数(出現率)の推移



## H22 不登校学年別出現率(深谷市)



資料③

# 国際化教育推進事業（ALT）

- 深谷市内29小・中学校で研究開発を実施
  - ※平成24～26年度 文部科学省指定
  - ※全国で2例のみの研究指定
- 小学校（3年生～6年生）で外国語活動を週1時間実施（教育課程の特例）
- 世界で活躍できる人材の育成

深谷発 世界へ！

渋沢栄一翁の心を受け継ぐ  
—真の国際人の育成—  
深谷市英語教育研究開発事業



文科省指定「教育研究開発」  
小学校3年生から外国語活動導入  
ALT2名増員（H23より）

## 外国語指導助手（ALT 16名）の配置



- ～真のグローバル人材の育成～
- 異文化・異言語の体験的理解
  - 英語による理解力・表現力育成
  - コミュニケーション能力の育成



## 市内、通級指導教室・特別支援学級に学習支援の教具としてiPadを整備



H25

### きこえとことばの教室

- ・難聴
- ・言語障害

### セルフサポート教室

- ・自閉症
- ・情緒障害
- ・学習障害(LD)
- ・注意欠陥多動性障害(ADHD)

### iPadの活用

1教室あたり 2台

- ◆ 発声・発音の練習
- ◆ コミュニケーションの補助
- ◆ 自分の話し方を動画撮影 等

1教室あたり 3台

- ◆ 書字トレーニング
- ◆ 集中力を持続
- ◆ 指先の微妙なコントロール 等



H26・27

### 特別支援学級

- ・知的障害
- ・情緒障害
- ・肢体不自由
- ・身体虚弱

1教室あたり 2台

- ◆ 学習補助
- ◆ 自立活動
- ◆ コミュニケーションの補助
- ◆ 集中力を持続 等

### ICT支援員

1日4時間各校をサポート

- ◆ 市として1名配置
- ◆ アプリのインストール
- ◆ ネットパトロール
- ◆ iPadの充電、アップデート等

# 深谷市立小・中学校スクールライフサポーター

## ●深谷市立小中学校スクールライフサポーター：市費臨時職員

- ・一人一人の児童生徒が規律ある態度を身に付け、自己を十分伸長することができるよう個々に応じた学習及び生活など学校生活全般への生徒指導に関する支援を行う。

## ●配置のメリット

- 1 様々体験活動や学習指導に係わることで積極的な生徒指導体制づくりが確立できる。
- 2 校内や校外を巡回し、安心して学べる学校づくりを支援することができる。
- 3 「中1ギャップ」「小1プロブレム」「学級がうまく機能しない状況」への早急な対応が可能となる。
- 4 いじめや不登校に対応する時間が生み出され、教員の負担を軽減することができる。
- 5 非行・問題行動への早期発見・早期対応が可能となる。

## ●配置改善計画 スクールライフサポーター(市費臨時職員) 勤務時間1日7時間、勤務日数210日

- ・サポーターは、生徒指導や学習指導等について理解があり、原則として教員免許や資格を有する。

…1人あたり月額 158,000円

積算基礎：時給1,100円×7時間×勤務日数20日の場合+交通費相当(200円×20日)

- 平成24年度・・・13名(スクールライフサポーター)を小中学校に配置
- 平成25年度・・・15名(スクールライフサポーター)を小中学校に配置 小学校5校、中学校8校
- 平成26年度・・・13名(スクールライフサポーター)を小中学校に配置 小学校1校、中学校8校  
1名(柔道支援)を中学校に配置 明戸中、川本中、幡羅中、岡部中  
※深谷中・南中は、配置されているスクールライフサポーターが柔道支援も兼ねる。

- 配置のパターン・・・
  - ① 1名1校配置
  - ② 1名2校配置(月ごとに週2日勤務校と週3日勤務校を設定)
  - ③ 2名1校配置
  - ④ 教育委員会配置(学校の実態や要求に対応する)



# 深谷市の英語教育

渋沢栄一翁の心を受け継ぐ

—真の国際人の育成—



深谷市英語教育研究開発事業



夢とこころざしをもち、  
まごころと思いやりのある深谷の子

外国人との自然な触れ合い

7年間を一貫した英語教育の推進



文部科学省指定「教育研究開発」  
小学校3年生から  
外国語活動を開始

**NEW!**

外国語活動アドバイザー  
役割：外国語活動推進全般  
・授業の指導、助言  
・指導と評価に関する研修  
・小学校と中学校の連携



資料⑦

—平成25年度の主な整備—  
 ・職員室校務用パソコンの入替  
 ・教室の旧ICT機器(書画カメラ)の入替

教員の事務的業務を削減 → 教員が子ども達と向き合う時間の確保

校務支援システムを幅広く活用しています！

校務の情報化

- ・名簿管理 ・出欠管理
- ・成績管理 ・通知表作成
- ・保護者メール ・校内メール
- ・掲示板 等

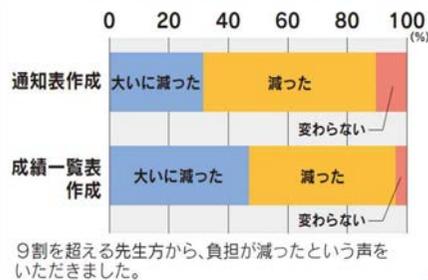
児童・生徒の情報を一元化し共有

正確さ・セキュリティの保持・管理

校務の効率化により負担軽減

教職員の声

通知表作成に関わる負担の軽減 ※1



災害に強い学校情報基盤整備

H23東日本大地震の教訓から

保護者連絡メール 台風・不審者等の緊急連絡  
 登録家庭95%以上

NetCommonsによる学校HP

アクセス数 年間10万件以上  
 全国的にもトップレベルの更新頻度  
 (53.6回/90日 全国平均4.36回)

平成25・26年度 職員室校務用PC入替予定

	小学校	中学校	計
現有台数	586台	366台	952台
現職員数	537人	316人	853人
25年度入替予定台数	210台	316台	526台
	岡部小、本郷小、榛沢小、岡部西小、川本北小、川本南小、花園小、他小学校3台ずつ		
26年度入替予定台数	327台	0台	327台
	12校		

耐用年数を超え、入替が必要

深谷市情報整備計画H20～H24



校務用コンピュータ1人1台 県内2位の整備率  
 (H24.3現在137% 市では1位)

教育の情報化ビジョン(H23.4.28) 第2期教育振興基本計画(案)H25～

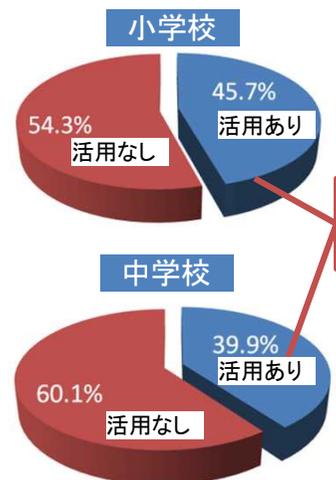
教室におけるICTの活用が進んでいます！

授業の情報化

- ・書画カメラ ・タブレット型PC
- ・モニター(スクリーン)
- ・プロジェクター ・電子黒板
- ・無線LAN ・高速インターネット

・書画カメラの老朽化→小学校120学級、中学校117学級  
 ・特別教室のICT整備(モニター、書画カメラ等)

ICTを活用した授業の割合

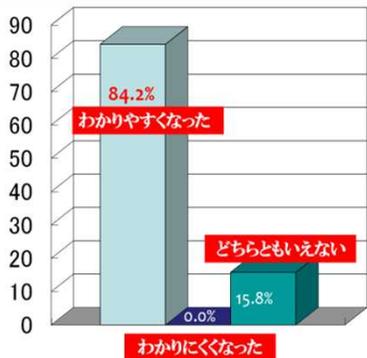


小学校はおよそ2時間に1回  
 中学校は1日に2時間以上



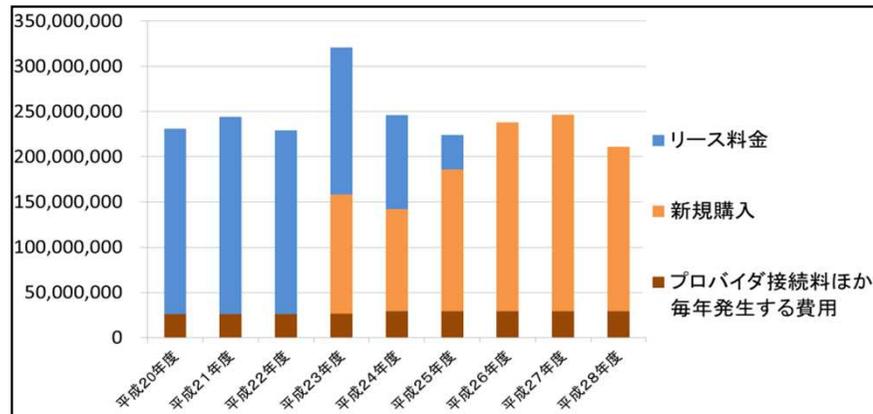
子ども達の声

ICTを使ったことで授業がわかりやすくなりましたか？



H22事業仕分け

- ・リース契約から現金購入に切り替え
- ・追加整備をせず、現在あるものを入れ替え



・利息分の削減 ・競争入札 → コスト削減  
 ・利用頻度の低いソフトの削減